

ゴーヘッドズ 速報

Goaheads

第31号 平成27年12月15日

不運な安打でより、失点が重なった・・・

序盤のリードを守りきれずPL戦3連敗喫す！

	1	2	3	4	5	6	7		R
P	0	0	2	2	1	0			5
G	3	0	0	0	0	0			3



早いもので、本日で今期最終戦となる。カードは、今期2連敗を喫している馴染みのPIOLAXである。勝利を手にし、勝率5割復帰を目指す大事な1戦だけに、何としてもエース畠中から先制をもぎ取る事が勝利への道である。先攻はPIOLAX、マウンドには久々の光希が上がり、プレイボールとなった。その大事な立ち上がりは、何とストレートの四球であった。しかし、2番は空三振に斬り、調子が良いのか悪いのか？わからないまま3番黒田へ。フルカウントの3-2からの打球は、技ありのレフト前、WPと盗塁が絡まり、一死二・三塁とピンチの場面に、しかし、後続2打者を凡打に斬り、初回のピンチを切り抜けた。その裏の攻撃、先頭は倒れたが、2番光希、3番哲也が連続2ベースで1点先制、4番深沢には四球、次打者が倒れ二死となったが、6番林が四球を選択、ここで打席にはジローが、このジローは畠中との相性が良いのか、前節でも1安打を放っている。2-1からの4球目を振りぬくと、打球は右前に。これで2走者が生還し、2点追加し3点を挙げる。更にいけいけの状態が続いたが、走塁ミスにより、チャンスが幕を閉じた。翌光希は四球で走者を出すも、後を許さず、打線は三塁まで走者を進めるも得点出来ず。そんな中、3回にゲームが動いた。3イニング連続で先頭打者に四球で出塁を許す。走者は細谷選手、両軍共に、スチールは無いと思ったが、何と、好走塁にて二塁を陥れる、この送球が逸れる間に一気に三塁まで到達。後続2打者は凡打に倒れるも、3番黒田に四球を与え、更に二盗を決められる。次打者のWPに間に生還され1失点。しかし、その後は、進塁を目指した走者を三塁に刺し、最少失点の1点に止めた。翌4回からマウンドは深沢に変わる。しかし、今日の彼はつきがなかった。右飛に打ち取った打球をセカンドが深追いし、結果安打として出塁、次打者には死球で出塁、そして、次打者も三ゴロに打ち取ったと思ったが、失策により、結果塁上に走者を溜め、無死満塁のピンチを迎えた。しかし、次打者を二飛に斬り一死、更には、二ゴロでホームホースにしたものの、DP崩れの間に走者が生還し、1失点、更には、先程好走塁を見せた細谷が右前に運び2失点目。次打者は遊ゴロに斬るも、逆転を許してしまった。徐々に、リズムを取り戻す畠中の前に打線が湿りがちになる。そして、翌5回にも、2安打と野手の失策で1点を失点しその差は2点。最終回には、英が安打で出塁するも、後続続かず、時間切れのゲームセットで、今期PIOLAX戦3連敗且つ、今期のチーム成績が7年振りの負け越しを記録して、今期のカードを終えた。振り返ると、初回の走塁ミスは痛かった。2回のチャンスに1本が出なかった。そして、何と言っても、相手にラッキーな安打が続いた事が、今日の敗戦の要因だろう。残念ながら、今期はこのような結果で終わってしまったが、来期はチームでもう少し考える野球を各人が実践し、一つでも多くの勝利ゲットしよう。ベンチからのサインの有無に関わらず、場面で打者が打席で何をするのか、しなければならぬのか？守備に於いても、内野手のみがベースを守るのではなく、外野手も積極的にベースを守る姿勢を見せ、進塁を防ぐ。そして、投手は何と言っても、ゲームを作る内容を意識する。これが勝利のセオリー、言うのは簡単だが、実践は難しい。だが、その気持ちを持つ事が一番重要な事ではないか！そう思い、来期に備えたいと思う・・・